

低炭素アスファルト舗装（中温化技術）用バインダー（ストレートアスファルト系）

ピュアファルトW

<NETIS 登録No.SK-110006-A Wバインダーシリーズ>

昭和瀝青工業株式会社

ピュアファルトWは、アスファルト混合物の混合・締固め温度を30°C程度低減できる機能を有するストレートアスファルト 60/80 相当のプレミックスタイプのバインダーです。ピュアファルトWは、アスファルト混合物製造時の燃料消費量を抑制し、二酸化炭素（CO₂）の排出量が削減できるため、地球環境保全に貢献します。また、施工温度域が広いこと、施工性の改善が必要な舗装工事にも適用できます。

特徴

1. アスファルト混合物の製造温度を通常のストレートアスファルトより30°C程度低減できます。
2. アスファルトプラントの燃料消費量や二酸化炭素（CO₂）排出量の低減が可能です。
3. 温度低減機能の持続性があるので、施工性の改善ができます。
4. プレミックスタイプのため、プラントミックスタイプの添加材と比べて投入手間が省けます。
5. バインダーおよび混合物の性状は、ストレートアスファルトとほぼ同等です。
6. 施工は通常の機械編成で行えます。

適用

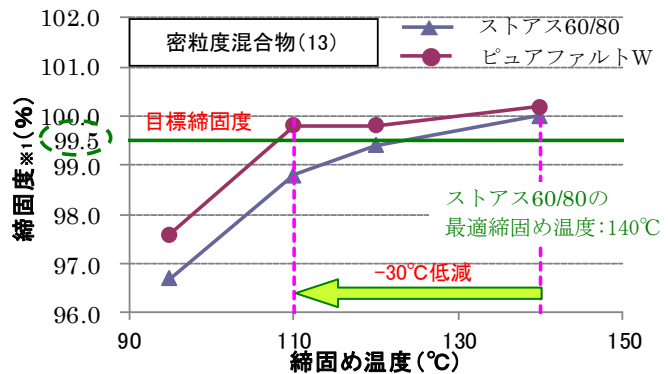
1. 環境負荷軽減対策が要求される舗装工事
2. 交通開放時間の短縮が必要な現場の舗装工事
3. 夜間、冬場、その他施工性改善が必要な場合

温度低減効果

ストレートアスファルトの所定の温度から30°C低い温度で締固めても、99.5%以上の締固め度と良好な混合物性状が得られます。（図-1、表-1 参照）

適用上の留意点

1. 配合設計はストレートアスファルトに準じます。
2. 再生混合物や特殊な混合物の場合、事前に締固め性を確認してください。
3. 中温化施工温度の目安を以下に示します。
 混合温度：120~140°C
 敷均し温度：120°C以上
 初転圧温度：110°C以上
 二次転圧終了温度：70~90°C
 交通開放温度：50°C以下



※1：ストレートアスファルト 60/80 の所定の締固め温度（例：140°C）時の密度に対する割合

図-1 マーシャル締固め温度と締固め度の関係（例）

表-1 混合物性状（例）

項目		中温化密粒(13) ピュアファルトW使用	通常密粒(13) ストアス60/80使用	基準値
バインダー量	%	5.6	5.6	—
温度 °C	混合	120	150	—
	締固め	110	140	—
マーシャル	密度 g/cm ³	2.408	2.413	—
	空隙率 %	3.5	3.3	3~6
	安定度 kN	6.8	8.3	4.90以上
	フロー値 1/100cm	34	35	20~40
残留安定度	%	86	88	75以上